

基準 10. 社会連携

基準 10—1. 大学が持っている物的・人的資源を社会に提供する努力がなされていること。

(1) 10—1 の事実の説明(現状)

10—1—① 大学施設の開放、公開講座、リフレッシュ教育など、大学が持っている物的・人的資源を社会に提供する努力がなされているか。

■大学施設の開放

ア. 表 10—1—1 のとおり、各種教室、会議室、講堂を学会、セミナー、試験、会議会場として提供している。

イ. 図書館は一般に公開されており、外部からの利用者を受入れている。

表 10—1—1 「施設開放状況」

年月日	内容	会場	人数
H22.5.30	健康食品管理士認定試験	1号館合同2教室	19人
H22.7.11	食生活アドバイザー検定試験	1号館合同2教室	3級178人,2級9人
H22.11.7	健康食品管理士認定試験	1号館合同2教室	79人
H22.11.28	食生活アドバイザー検定試験	1号館合同2教室	3級12人
H22.12.23	上級バイオ技術者認定試験	1号館合同2教室	71人

■公開講座

ア. 平成 23 年(2010)年 10 月 30 日大学祭に合わせ、講堂において、市民公開講座として本学教員による「健康増進のためのスポーツの勧め」講演会を実施した。

イ. 日本医療福祉情報行動科学会第 6 回大会を本学共催で開催した。名誉大会長に学長、大会長に看護学科長が就任し、平成 23(2011)年 3 月 26・27 日の 2 日間、岐阜市民会館で開催した。27 日は聖路加国際病院理事長を務める日野原重明先生を招いて一般講演を行い、多くの聴衆を集めた。

■人的資源の提供

ア. 本学では、外部機関より本学教職員へ講師の派遣依頼や委員会委員の就任依頼について、本務の妨げにならない範囲で積極的に協力している。

イ. 助産学専攻科では小学生高学年及び中学生を対象に性教育の出前講義を行っている。

表 10—1—2 「助産学専攻科出前講義状況」

年月日	実施校	対象者
H22.7.9	関市立小金田中学校	3年34人
H22.7.16	関市立小金田中学校	3年34人
H22.11.4	関市立旭ヶ丘中学校	1年79人
H22.11.11	関市立小金田中学校	3年97人
H22.11.26	下有知中学校	1年79人
H22.12.1	関市立富岡小学校	5年82人
H22.12.15	関市立武芸川中学校	3年80人
H23.1.17.	関市立旭ヶ丘小学校	5年77人
H23.1.18	関市立南ヶ丘小学校	5・6年37人
H23.1.20	関市立洞戸小学校	4・5年40人

ウ. 地域の各種委員会委員へ就任している(表10-1-3)。

表10-1-3 「外部委員就任一覧」

所属	職名	氏名	委嘱元	委員名
岐阜医療科学大学	学長	間野 忠明	ネットワーク大学コンソーシアム岐阜	監事
			財団法人スポーツ医・科学研究所	評議員
			日本自律神経学会	国際涉外委員長、「自律神経」編集委員
			岐阜県私立大学協会	副会長
			岐阜県私学団体連合会	理事
			ぎふ清流国体関市実行委員会	実行委員
			国際生涯委員会	委員長
			自律神経機能委員会	委員
			日本宇宙航空環境医学会	理事・評議員・評議員推薦委員
			学会功労賞選考委員会	委員長
			国際重力生理学会 (ISGP)	理事・編集委員
			国際自律神経科学学会 (ISAN)	理事(アジア代表)
			日本内科学会東海地方会	評議員
			日本生理学会	評議員
			日本末梢神経学会	評議員
			ニューログラム研究会	代表世話人
			国際マイクロニューログラフィ学会	副会長
			日本医療福祉情報行動科学会	顧問
保健科学部	学部長 教授	山岡 一清	岐阜県医師会	臨床検査精度管理委員会委員
			ネットワーク大学コンソーシアム岐阜	地域連携・産学連携部会委員
			関市	健康福祉交流施設整備委員
			関市	関市公文書公開審査会及び関市個人情報保護審査会委員
			岐阜県健康福祉部	健康福祉交流施設整備の災害医療等に関する検討委員会委員
			岐阜県医療審議会	岐阜県医療審議会委員
保健科学部 衛生技術学科	学科長 教授	前田 悟司	岐阜市・岐阜市保健所	岐阜市精度管理専門委員
			岐阜県健康福祉部医療整備課	岐阜県精度管理専門委員
保健科学部 衛生技術学科	教授	加藤 義弘	財団法人岐阜県体育協会	スポーツ医科学委員会委員
			岐阜県スポーツ科学トレーニングセンター	平成22年度健康安全委員会委員
			関西ラグビーフットボール協会	第31回関西中学生ラグビーフットボール大会および 第12回関西中学生ラグビーフットボールジャンボリー 役員
保健科学部 衛生技術学科	准教授	高崎 昭彦	日本臨床スポーツ医学会	評議委員
保健科学部 衛生技術学科	講師	三嶋 智之	ネットワーク大学コンソーシアム岐阜	FD・SD部会委員
保健科学部 放射線技術学科	学科長 教授	片渕 哲朗	日本核医学技術学会	理事
			日本心臓核医学会	理事
			医用画像情報学会	理事
			日本核医学会	評議委員
			日本放射線技術学会	評議委員
			日本核医学技術学会 東海支部	監事
保健科学部 放射線技術学科	准教授	小野木満照	厚労省 研究班村田班会議	班員
保健科学部 放射線技術学科	講師	水野 英莉	社団法人日本放射線技師会	総会代議員
			日本核医学技術学会 東海地方会	理事
保健科学部 看護学科	学科長 教授	守本 とも子	日本スポーツジェンダー学会	第10回学会大会実行委員
			日本看護学会老年看護学術集会	平成22年度第41回日本看護学会－老年看護－学術集会 抄録選考委員
			日本私立看護系大学協会	監事
			社団法人奈良県看護協会	老年看護学会準備委員
保健科学部 看護学科	教授	阿部 順子	日本医療福祉情報行動科学会	第6回大会 大会長
			厚生労働科学研究・高次脳機能障害に関する地域支援 ネットワークの構築に関する研究 東海ブロック	東海ブロック連絡協議会委員
			岐阜県健康福祉部保健医療課	高次脳機能障害支援対策推進委員会委員
			岐阜県精神保健福祉センター	研究評議委員
保健科学部 看護学科	教授	安藤 邑恵	独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構	
保健科学部 看護学科	教授	岡本 祥成	関市	関市総合計画審議会委員
保健科学部 看護学科	准教授	橋本 広子		関市老人福祉計画等推進委員
保健科学部 看護学科	助教	上平 公子	社団法人岐阜県看護協会	岐阜県精神保健福祉審議会委員
助産学専攻科	専攻科長 教授	唐沢 泉	特定非営利活動法人岐阜県居宅介護支援事業協議会	第三者委員会委員
			社団法人日本助産師会岐阜県支部	教育委員
			岐阜県閲覧保健所	閲保健所母子保健推進協議会委員
			日本助産学会	第25回日本助産学会学術集会実行委員
			関市子ども生き生き事業	講師
助産学専攻科	講師	前田 キヤ子	関市子ども生き生き事業	講師
事務局	事務局長	蟹江 尊徳	ネットワーク大学コンソーシアム岐阜	監事、幹事
事務局学生課	課長	相葉 重雄	岐阜県私立大学協会	理事
			岐阜県医療科学大学	科目編成検討部会委員

エ. 高等学校からの要望で高校生へ医療技術部門の業務の内容と、医療従事者になるための課程について現地での出張模擬講義を行っており、平成22(2010)年度は5校で実施した。

オ. 東日本大震災に関し、岐阜県庁より、「現地支援を行っている隊員が帰還した際の放射能汚染検査のため、本学所有の計測機器を借用したい。」との依頼があり、教員2人を派

遣し機器使用の説明と貸与を行った。

(2) 10-1の自己評価

- ・積極的な物的、人的資源の提供は大学としての使命・目的であることを理解し実施している。現在は、開学から6年ということもあり、施設開放や公開講座等、多くは実施されていないが、できる限り実施しており、また今後も社会からの要望を聞き、増加させていく。

(3) 10-1の改善・向上方策(将来計画)

- ・本学は、関市郊外に設置されているが、従前、地元との関わりが少なく地域からの認識も低い。現在、積極的に物的・人的資源の提供を行い、地域密着を図っているところである。特に医療関係は一般の方にとり関心の深い分野でもありことから、今後も積極的な公開活動をすすめていく。

基準10-2. 教育研究上において、企業や他大学との適切な関係が構築されていること。

(1) 10-2の事実の説明(現状)

10-2-① 教育研究上において、企業や他大学との適切な関係が構築されているか。

- ア. 本学では外部の施設に「臨地実習」を委託しており、衛生技術学科41施設、放射線技術学科38施設、看護学科69施設、助産学専攻科11施設において、実習前の打ち合わせ会、実習中の実習指導等病院、施設と密接に連携をとって実行している。
- イ. 岐阜県下、加盟団体22大学及び短期大学・1団体及び賛助会員1団体で構成するネットワーク大学コンソーシアム岐阜に平成22(2010)年度から加入し、イベントへの参加、公開授業の学生への案内等を行っている。
- ウ. 教員の研究については、個々の研究テーマに基づき、関連大学、病院、研究所等と協力して進めている。
- エ. 3・4年生を対象にした就職セミナーの中で、病院技師長や看護部長を招き「採用担当者から見たほしい人材」等の講演会や本学卒業生との懇談等を行い、医療機関との連携の中で学生への意識付けを図っている。

(2) 10-2の自己評価

- ア. 「臨地実習」は本学全ての学科・専攻科において重要なプログラムである。学生に関する問題や実習のあり方等の情報交換を密に行うと共に、また病院側も人材確保の面で貴重な機会と位置付けている。臨床実習を通し、本学と医療機関は適切な関係を保っている。
- イ. 研究分野においても、関連大学、病院、企業等との適切な連携を図っている。
- ウ. ネットワーク大学コンソーシアム岐阜への加盟を行い、地域大学との適切な連携を図っている。

(3) 10-2の改善・向上方策(将来計画)

- ア. 臨床実習や就職活動等を通しての医療機関や企業との連携は密接に行っており、今後は研究や地域連携活動を活発にして協力関係を深くしていく。

イ. 加盟したネットワーク大学岐阜における他大学との単位互換や交流を深めていく。

基準10—3. 大学と地域社会との協力関係が構築されていること。

(1) 10—3の事実の説明(現状)

10—3—① 大学と地域社会との協力関係が構築されているか。

- ア. 社会との協力関係は、本学所在地の自治体である関市及び富加町そして岐阜県との協力関係において、地域社会への貢献活動を展開している。(表10—1—3参照)
- イ. 関市民の健康状態の改善を目的として、平成20(2008)年度より関市と共に「せき健康の郷づくり事業」を行っている。「生涯教育委員会」が担当し、大型スーパー等の会場で来場者に対し健康チェックとして、血圧測定、骨密度測定、血管年齢測定等の各種検査を学生が行っている。平成22(2010)年度は6回実施し、約1,400人の参加があった。
- ウ. 上記事業の一環として平成22(2010)年6月12、13日に開催された「第30回全国豊かな海づくり大会」に出展し健康チェックを行い、約400人の参加があった。また、学園祭においても地域住民等の来場者に公開講座及び健康チェックを行った。この催しは、新聞の折り込みチラシでPR(Public Relations)したこともあり、多数の来場者を集めた。

(2) 10—3の自己評価

- ア. 保健医療関係を中心として、岐阜県や関市の委員会等に多くの教員を派遣し、それが専門的な立場から提言を行っており、地域保健医療行政に深く関わっている。
- イ. 関市と共に実施している「せき健康の郷づくり事業」は3年が経過し充実しており、今後も地域住民の健康づくり活動に積極的に参加していく。
- ウ. その他の地域貢献活動に関しても「保健」をキーワードとして積極的に参加している。

(3) 10—3の改善・向上方策

- ・今後も岐阜県や関市をはじめとする近隣の市町村との協力関係を一層深めていく。

[基準10の評価]

- ア. 物的・人的資源の提供について、施設開放は開放可能施設が少ないと立地条件等の問題もあって少なく、また公開講座も活発ではないが、積極的な提供を心掛けている。
- イ. 病院や他大学との関係については、「臨地実習」や研究、ネットワーク大学岐阜コンソーシアム等を通じて活発に行っている。
- ウ. 地域との協力関係については、公的委員会への委員参加や関市との共働事業等、積極的に実施している。

[基準10の改善・向上方策(将来計画)]

- ア. 「生涯教育委員会」を中心に、公開講座や出前講義等の活発化を検討しており今後、物的・人的資源の提供を強化していく。また、関市や岐阜県との共働事業も更に活発化していく。
- イ. 病院との関係については、入学生が地元に集中する傾向が強くなる中、特に臨床検査技師や診療放射線技師等の就職先を広範囲に確保する必要があり、「臨地実習」受け入れ

施設の拡充と併せ、関係を強化していく。

ウ. 科研費の新規獲得等により研究活動を活発化させ、病院や企業等との関係を強化していく。